

CTC06-II-050

2006 さっぽろ夢灯り

Sapporo Ice Candle Festival 2006

M. Fujii

K. Kobayashi

K. Gotoh

COLD
REGION
TECHNOLOGY
CONFERENCE 2006

1. はじめに

北海道における雪を活用した冬期イベントでは、これまで 57 回を開催する「さっぽろ雪まつり」が、もっとも有名である。現在も諸外国をはじめ、道内外より多くの観光客が訪れているが、来場者数は徐々に減少しているのが現状である。一方、近年、「小樽雪あかり」「下川アイスキャンドルミュージアム」など、地域住民を中心に、ひとつひとつのキャンドルを人の手で灯す、参加型の催しが各地でみられ、観光客からも注目を集めている。このような背景のなか、「北海道点灯虫の会」では、平成 18 年 2 月 11 日（土曜日）、さっぽろ雪祭り会場にて地域ボランティアによる雪とキャンドルの参加型イベント「さっぽろ夢灯り」を開催した。この取り組みは、「雪道を灯りと人々のふれあいの場とし、誰もが参加できる楽しい催しを通じさっぽろの灯りの文化を育てていく」ことを目的としており、寒くて長い北海道の冬を楽しく暮らす、生活文化の提案のひとつとして、冬のまちなみを彩る取り組みである。本報告では、上記、「さっぽろ夢灯り」について、開催に向けた事前準備から、当日の様子、参加者の声などを報告するとともに、冬期における、地域ボランティアによる参加型イベントの開催について、効果と課題を考察する。

2. 活動の概要

2.1 実施主体

ここでは、「さっぽろ夢灯り」の実施主体である「北海道点灯虫の会」について概要を紹介する。「北海道点灯虫の会」は、ボランティアによる任意団体であり、

- ・一人一人が参加する楽しみを持ち“灯り”を通して多くの人たちと心のネットワークを作ること。
- ・“灯り”を用いた景観形成や生活文化の提案等、地域の

魅力創造に繋がる活動を行うこと。

を目的として設立。目的に賛同する個人及び団体の会員とその会費により運営している。「さっぽろ夢灯り」は「北海道点灯虫の会」が主催する活動の一つとして実施した。

3. 事前準備

3.1 全体計画の作成

「さっぽろ夢あかり」の開催にあたっては、開催日時、場所、実施内容、プログラム、事前準備、広報等の全体計画を作成した。開催日、場所については、より多くの方に参加頂きたいという想いから、公共交通機関によるアクセスが容易であり、多くの来場者が見込まれる「さっぽろ雪まつり」期間内に同会場の一部を借用しての実施を計画した。また、「さっぽろ雪まつり」開催期間中の継続した取り組みを希望する声も聞かれたが、現在のボランティアによる運営体制においては、費用・労力ともに 1 日の開催が限界と判断し、1 日のみの開催とした。

さっぽろ夢灯り-全体計画

- | | |
|-------------|---|
| ■開催日 | 平成 18 年 2 月 11 日（土曜日） |
| ■開催場所 | 札幌市大通り公園 1 丁目 北側通路部分 |
| ■実施内容 | ・1,000 本のキャンドルによる“灯りの小路”
・手作りキャンドル体験 |
| ■開催プログラム | |
| 16:00（点灯開始） | みんなで灯りを灯そう！ |
| 17:00（点灯式） | 暖かな灯りの中で点灯式 |
| 20:00（消灯） | 灯りのプレゼント |

3.2 周知活動

一般の方々への周知は、「さっぽろ夢灯り」の開催をお知らせするリーフレットを作成・配布した。また、当日の会場においても来場者へ手渡す等の周知をおこなった。

・仕様：A4両面 ・配布数：800部

・配布期間：平成18年1月16日～2月11日

リーフレットの制作にあたっては、開催内容等の他、夢灯りキャンドルの作り方や、主催である「北海道点灯虫の会」の会員募集などを記載し、誰もが参加できる手作りのイベントであることを紹介するとともに、興味をもった方が、今後に活動に参加できるよう工夫した。



図1-開催案内リーフレット(表・裏)

3.3 キャンドル配置(デザイン案)の検討

キャンドル配置の基礎となる「灯りの小路」は、札幌市内で生け花を学ぶ有志の方々(大森アカデミーデザインスクール)がデザインを担当。デザイン案をもとに、3回の打ち合わせを行い、「灯りの小路」の具体的な制作方法、手順、キャンドルの配置計画等について検討した。

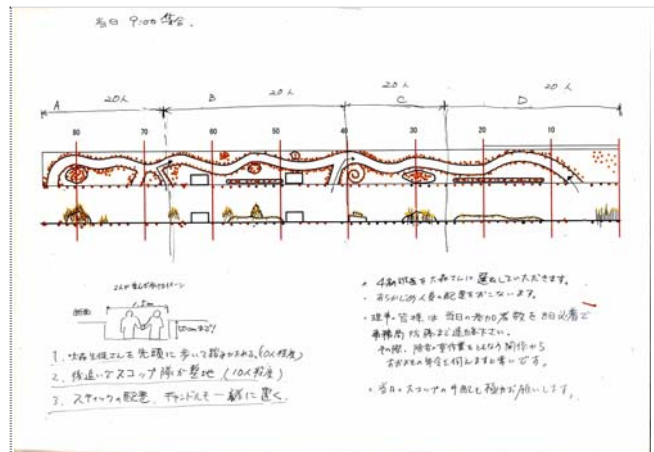


図2-キャンドル配置(デザイン案)

3.3 キャンドルの制作

「さっぽろ夢あかり」で使用するキャンドルは、牛乳パックを用いて制作し、行灯の役割をもつ外側と実際に着火し燃焼する内側のロウソクの二重構造となっている。外側は、内側のロウソクより融点の高いロウ(ワックス)を用い、着火し内側のロウソクが溶けても外側はそのまま残る仕組みとなっている。当日使用する1,000本のキャンドルは、下記の通り2回のキャンドル制作日を設け制作。

・第1回キャンドル制作 平成18年1月16日(月曜日)
[18:00~21:00] 社団法人北海道開発技術センター内にて、約20名が参加し200本のキャンドルを制作。

・第2回キャンドル制作 平成18年1月21日(土曜日)
[10:00~18:00] 株式会社構研エンジニアリング内にて、約30名が参加し500本のキャンドルを制作。

その他、デザインを担当する大森アカデミーデザインスクールの有志により200本のキャンドル制作が行われ、計1,000本のキャンドルが完成した。



図3-ロウソク作り使用するワックス



図4-牛乳パックの1/3程度ワックスを流し込む



図5-口をしっかり閉じ、同一方向へ転がす



図6-固まったらカッターで牛乳パックを剥がす



図7-内側にキャンドルを接着



図8-夢灯りキャンドル完成

キャンドル制作以前は、制作にどのくらいの時間を要するか等、1,000本という規模に不安の声も聞かれたが、実際に制作を始めると、キャンドルを創る楽しさも加わり、予想より負担がなく制作を行うことができた。また、自分たちの手でひとつ、ひとつキャンドルを制作したことで、スタッフから「早く灯してみたい。」「1,000本灯すとどのようになるか。」等、期待の声も聞かれ、イベント開催へ向けた実施意欲が向上したように感じた。

4. 「さっぽろ夢灯り」の実施

「第57回さっぽろ雪祭り」も終盤を向かえた、平成18年2月11日(土曜日)雪景色の大通り公園に1,000本の夢灯りキャンドルが灯り、北海道の冬のまちなみを彩った。当日は、午前9時より、ボランティアスタッフ約80名が集合。「灯りの小路づくり」「看板設置」「手作りキャンドル工房」の3グループに分かれ「さっぽろ夢灯り」開催の為の作業・運営を行った。

4.1 作業・運営スケジュール

以下に、開催当日の作業・運営スケジュールを示す。

時間	内容	
9:00	集合～全体打ち合わせ	
9:30 ～12:00	作業開始（小路づくり、看板設置、キャンドル工房準備）	
12:00	昼食（順次交代）	
13:00 ～16:00	キャンドルのセッティング	手作りキャンドル工房開始 ・制作体験
16:00	点灯開始	
17:00 ～20:00	点灯式～ “灯りの小路”	
20:00	終了（希望者へキャンドルを配布）	

4.2 作業概要

◇“灯りの小路”づくり

“灯りの小路”は、除雪作業から通路となる雪の小路や丘など、キャンドル配置の基礎となる造成を行った。作業は、10名程度づつ4班にわかれ、事前に区分していた4区間ごと、担当のリーダーを中心に、雪面に描いたカラーズプレーのラインとデザイン案を頼りに、通路となる小路の除雪作業から開始。雪を踏みしめ、さらに水をかけ強度を増す等の制作にあたった。



図9-打ち合わせの様子



図10-ラインを目印に除雪



図11-除雪作業



図12-雪山の成形



図13-踏み固め



図14-水で強度を増す

通路を中心とした“灯りの小路”の基礎ができると、次に、キャンドルの配置を行った。キャンドルは、真鍮でできた組み立て式のキャンドルスタンドを用い、デザイン案をもとに各ポジションへ配置。その他、小路の側面に穴を

掘る、雪の上に直接配置するなど、グループごと、思い通りにキャンドルのセッティングをおこなった。



図15-キャンドルスタンドの組み立て



図16-キャンドルの設置

◇看板の設置

「さっぽろ夢灯り」を周知するため、点灯開始時間等の開催プログラムを記載した看板を設置。併せて、この取り組みにご協力頂いた方々の紹介と、今後の取り組み継続に向けて、会員の募集の告知も行った。



図17-看板組み立て



図18-看板設置

◇キャンドルづくり体験工房の実施

観光客や一般の方々を対象に、キャンドルづくりが体験できる工房を準備。材料費300円を徴収し、夢灯りキャンドルの制作体験を実施した。参加者は、雪祭りを訪れた親子づれが多く、計36個のキャンドル制作が行われた。また、当初の予定では、午後1時より午後5時までの実施であったが希望者が続いたため午後7時まで時間を延長しての実施となった。さらに、一部ペイントが施されたキャンドルを設置していたことから、ペイント希望が多く、予定外ではあったが、ペイント用のクレヨンを用意し、ペイントも楽しんで頂くこととした。



図19-キャンドル制作指導



図20-キャンドルペイント

4.3 「さっぽろ夢灯り」の開催

日が落ち始めた午後4時より、夢灯りキャンドルの点灯を開始。午後5時からの「点灯式」までに1,000本のキャンドルへ点灯を行った。また、一般の方々へも参加を呼びかけ、点灯を希望する方々へ着火用具を手渡し、参加いただいた。



図 20-着火用具の貸出



図 21-参加者による点灯①



図 22-参加者による点灯②



図 23-アイスキャンドル (F1町より)



図 24-灯りの小路①



図 25-灯りの小路②



図 26-灯りの小路③

点灯開始の午後4時から消灯する午後8時まで、“灯りの小路”の人通りは途切れることがなく、「さっぽろ雪祭り 11 丁目会場」を訪れた多くの方が“灯りの小路”を通過する、立ち止って眺めるなどしていた。また、点灯に参加する方、カメラ付きの携帯電話やデジタルカメラで撮影を行う姿も多数見られた。さらに、消灯時に、希望者へキャンドルを配布したところ約300個のキャンドルが持ち帰られる結果となった。以下、会場にて聞かれた参加者の声をいくつか紹介する。

- ・キャンドルを制作したり、点灯したり、自分も参加できるイベントは楽しい。
- ・冷たい雪と氷の中に、暖かなキャンドルが灯っている光景が、北海道ならではの美しい。
- ・雪像が続くので、違った印象の空間を楽しめて良い。
- ・キャンドルづくりは、北海道旅行の良い記念となる。

また、「中のロウソクだけが、溶けていくのが不思議。」といった質問もあり、キャンドル工房で作り方を紹介する

等「さっぽろ夢あかり」は参加者の好評を得て終了した。

5. 考察～効果と課題

「さっぽろ夢灯り」は、事前準備から当日の運営まで、全てボランティアの運営により実施した。ここでは、この取り組みを通して感じた、地域ボランティアによる参加型イベントの開催について、効果と課題について考察する。

まず、効果について「雪道を灯りと人々のふれあいの場とし、誰もが参加できる楽しい催しを通じ、さっぽろの灯りの文化を育てていく」という当初の目的に対し、次のような効果があった。

- ・会員及びボランティアスタッフが多数参加し、普段接する機会のない人々の間に、「雪」による小路制作の作業や、「灯り」の点灯により、協力・交流が生まれた。
- ・また、会員及び、ボランティアスタッフの家族や知り合いをはじめ、市内からの親子づれ、道外観光客まで、幅広い方々に「雪」と「灯り」の楽しみを感じて頂いたことで冬期の札幌における灯り文化を育む一つとなった。

課題については、参加者の多くが「さっぽろ雪祭り」を目当てに来場された方々であり「さっぽろ夢灯り」の認知度が低いことがあげられる。チラシの配布、ホームページでの掲載等、周知活動は行ったが、関係者を通じた一部にしか情報が伝わっていないのが現状であり、今後、活動の広がり視野に入れ、一般の方々へどのように情報伝えていくかが課題となる。また、今後の活動の継続に向け、主催となる「北海道点灯虫の会」の会員及び、ボランティアスタッフの確保・育成も必須であり、例えば、今回中心となったメンバーによるサポートを前提に、新たなメンバーを加え運営にあたる、ホームページ等情報共有が可能な媒体において活動情報を蓄積する等「雪」を活用した参加型イベントの運営・実施において、経験したノウハウを蓄積し次に活かすための仕組みが必要と感じる。

6. おわりに

北海道の寒くて、長い冬を楽しむ生活提案のひとつとして、運営する側も、参加する側も冬だからこそ楽しめる、「寒さ」や「雪」を活用したイベントの開催は、地域に住む人間が、自分の住む地域に対する愛着を育む機会となるとともに、観光客など外から訪れる方へにとっても、北海道という地域ならではの季節や自然、そして人の魅力に触れる良い機会になると感じる。現在、北海道の冬期期間において、各地で開催されている地域主体の「灯り」の取り組みに関わる人達との情報交換の場を企画している。先に述べた情報発信等、課題解決の糸口を見つけられればと思う。また、次回「さっぽろ夢灯り」の開催に向け、会場協議等の準備も進めており、一人でも多くの方と、北海道の冬を楽しむ取り組みとしたい。